

氏 名：榎戸 文子
学 位 の 種 類：博士（看護学）
学 位 記 番 号：甲第 226 号
学位授与年月日：2022 年 3 月 10 日
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当
論文審査委員：主査 山田 雅子（聖路加国際大学教授）
副査 萱間 真美（聖路加国際大学教授）
副査 高橋 奈津子（聖路加国際大学准教授）
副査 窪田 彰（錦糸町クボタクリニック理事長）

論 文 題 目：通院中断している統合失調症患者に対する支援プロトコル実装の評価

博士論文審査結果

この研究は、統合失調症患者が多く通院する精神科クリニックにおいて、通院を中断する患者に対する支援プロトコルを実装し評価することである。

介入計画は、最終受診日から 2 か月経過している統合失調症患者を毎月把握し、その者に対し様子伺いの電話をかけることであった。その特徴は、診療記録から該当する患者を抽出し、その者へ電話をかけるまでの一連を多職種チームで取り組むことでありまた、実装アウトカムの指標としてワーク・エンゲイジメントを用いたことである。それは単に、通院中断者への電話件数の増加でプロトコルを評価するのではない。参加した多職種職員が、通院中断患者に対して前向きな心理状態で取り組むことができ、研究終了後も活動が継続されることを意図した研究者独自の期待が込められた指標として位置付けられた。

対象者は、延べ 203 名の統合失調症患者と 78 名のクリニックス職員に及んだ。通院中断者への電話実施率は 91.4%まで上昇し、単月通院再開率は 50～70%台を推移した。またプロトコル忠実性、受け入れ可能性は概ね高い傾向を示し、殆どの職員のワーク・エンゲイジメントが高まったことが確認された。さらに職員の語りから、「患者やスタッフそれぞれに共感性を持ちながら、患者と医療のあいだの倫理的バランスをとっていく」ことがこの課題に取り組む職員のエンゲイジメントとして抽出された。詳細な手順書の作成、職員教育、丁寧な振り返りによる質改善の経過を経て、「通院中断している統合失調症患者に対する支援プロトコルの実装は、患者の医療継続支援に活用できることが示唆された」と結ばれた。

審査では、外来患者数増加に伴い通院中断者へのケアが手薄となった臨床現場への有効

な介入であり、各専門スタッフがこの課題に取り組む価値を再認識できるまでの実装プロセスが詳細に記述され、DNP 研究として高く評価された。指摘事項は、研究組織がわかりにくい、エンゲイジメントとワーク・エンゲイジメントの関係が説明されていない、列挙された仮説の検証結果が書かれていないなどであった。審査後の修正にて最終的には 2022 年 2 月 15 日にすべて修正されたことを確認した。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。